

熊本市 感染症発生動向調査 速報

現在の流行状況

RSウイルス感染症に注意しましょう！

RSウイルス感染症は、冬季に流行する呼吸器感染症です。
 今週は減少しましたが、まだまだ流行期が続きますので注意が必要です。
 生後1歳までに半数以上が、2歳までにすべての小児が感染すると言われています。特に、生後6ヶ月以内の乳児がRSウイルスに初めて感染した場合、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を起こすことがありますので生後6ヶ月以内の乳幼児は感染しないように注意しましょう。

【症状】

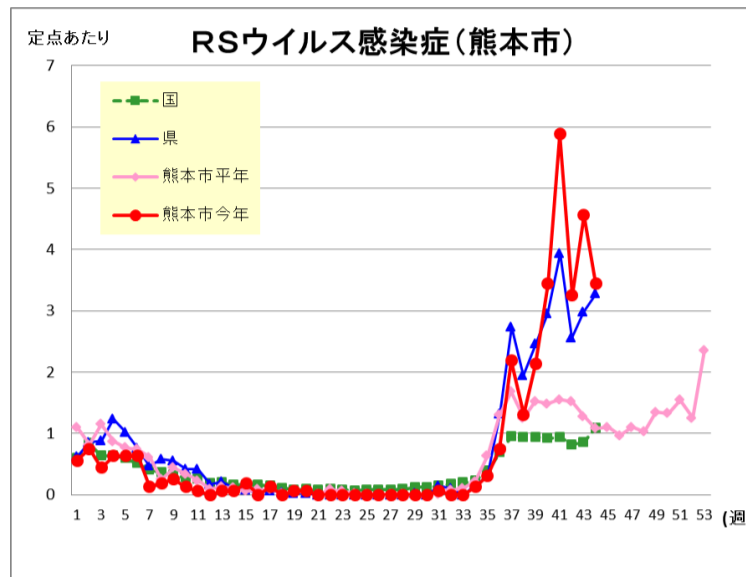
鼻水、咳、発熱などいわゆる「かぜ」のような症状がみられ、1～2週間で軽快します。多くは軽症で済みますが、初めてかかった場合、約3分の1に細気管支炎や肺炎などを起こします。また、一度感染しても再び感染します。

【感染経路】

- ・ウイルスは咳やくしゃみのしぶきからの飛沫感染
- ・感染した人との濃厚接触や手指やドアノブ等を介した接触感染

【予防方法】

- ・外出後の手洗いうがいの励行。
- ・流行期には赤ちゃんを人ごみに連れて行かない。
- ・症状のある人はマスクをする。



期 間		第43週		第44週	
		10/20～10/26		10/27～11/2	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	0	0.00	1	0.04
RSウイルス感染症	流行中 ⬇	73	4.56	55	3.44
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	3	0.19	2	0.13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⬇	32	2.00	23	1.44
感染性胃腸炎	➡	29	1.81	30	1.88
水痘(みずぼうそう)	➡	15	0.94	19	1.19
手足口病	➡	3	0.19	4	0.25
伝染性紅斑(りんご病)	➡	0	0.00	4	0.25
突発性発しん	➡	16	1.00	15	0.94
百日咳	➡	0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ	➡	0	0.00	3	0.19
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	1	0.06	1	0.06
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	⬇	7	1.40	3	0.60
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	⬇	4	0.80	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	➡	1	0.20	1	0.20
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	0	0.00	0	0.00